

令和3年6月7日

帯広市長 米沢 則寿 様

帯広市議会議長 有城 正憲

新型コロナウイルスワクチン接種に関する再緊急要望

今般、北海道にも6月20日まで緊急事態宣言が再延長された。帯広十勝も未だ感染の高止まりレベル5状態にあり住民の不安は限りない。

このような状況下において、政府は高齢者ワクチン接種7月下旬終了体制を強力に後押しし、それに伴い全国はもちろん帯広市と同規模の苫小牧市・釧路市を含む道内自治体、十勝のほぼ全自治体も7月下旬終了を目指している。

このような報道公表を見るたびに市民にはなぜ帯広市のみが8月終了なのか？との不満が増大してきている。

帯広市の高齢者一般接種も1日より始まったが、8月以降の予約も多くある中で現状の個別接種のみの体制では更なる期間の延長が懸念される。

そういう状況を見かね、先日も商工会議所はじめ地元経済11団体は加速化を求めて緊急要望した。

市議会としても5月20日に緊急要望したところだが、このような団体・住民の熱い思いを受けて下記のとおり再度緊急要望する。

記

- 1 個別接種体制を再度点検し高齢者集団接種・職域接種等の実施を含め、市のワクチン接種が効率的かつ至急に実施され、他自治体と同様に7月下旬までの高齢者接種終了を目指すこと。
- 2 64歳以下の接種は勤労世代で他町村への行き来も多い。少なくとも帯広圏1市3町が、接種時期等集団免疫の点から連携すること。
- 3 コールセンターの二重予約解消、ネット予約操作不慣れな方々への援助強化を図る等、予約の公平性を確保するための各種方策を講じること。